平成２８年度以降使用中学校教科用図書調査報告書

教科（科目）名	社会（歴史的分野）
発行者名（番号）・教科書名	東京書籍（２） 新編　新しい社会　歴史
１　取扱内容	・教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び学習指導要領に定める社会科の目標を達成するための基本的事項が全て取り上げられている。 ・大きく見やすい資料を効果的に配置したり、本文や側注等を平易な文章で表現したりすることにより、基礎的･基本的な知識及び技能の確実な習得を目指している。 　また、「学習課題」はめあてを示し、「確認」では、その時間の振り返りや、さらに深める課題でまとめを行うコーナーを随所に設け、思考力や判断力、表現力を高め、定着させるよう工夫されている。
２　内容の選択及び扱い	・「歴史スキルアップ」のコーナーでは、歴史学習の基礎的・基本的な知識や技能、資料の読み取りの力を習得するための学習方法が示されている。 ・巻頭では、日本の国宝・重要文化財や日本の世界遺産がカラー写真で豊富に紹介されている。 ・第１章（ｐ５～ｐ１８）では、調べ学習の方法や発表の方法が例示され、歴史を学ぶ意欲が高まるよう配慮されている。 ・巻末には、用語解説のコーナー（ｐ２７６～ｐ２８１）が設けられており、理解しづらい概念について、わかりやすい表現で解説され、生徒が自主的に学習を進めることができる。 ・単位時間ごとに、導入資料を基に「学習課題」を設け、「机マーク」のある枠内に重要語句や用語を使って○○字程度で自分の言葉で説明する言語活動を設定することにより、思考力・判断力・表現力の育成をうながす配慮が為されている。 ・各章末には「この時代の歴史の学習を確認しよう」では、書き込み式の略年表と図表や写真をもとに自分なりの言葉で説明する活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させると共に、思考力・判断力・表現力を向上させる配慮がなされている ・人権問題については、本文の系統的な記述だけでなく、「歴史にアクセス」にも記載され、「女性コラム」では、各時代で重要な役割を果たしてきた女性について取り上げることで、歴史的背景をとらえると共に男女平等の意義について考え、公民的分野との関連が図られている。 ・「私たち歴史探検隊（地域の歴史を調べてみよう）」のコーナーでは、身近な地域の歴史調査を通じて歴史の学び方を身につけると共に、調べ方のポイントをわかりやすく示し、効果的に学習が進められるようになっている。 ・「日本の領土をめぐる問題とその歴史」（ｐ２５２～ｐ２５３）では、現在の領土をめぐる問題として北方領土、竹島、尖閣諸島が、いずれも日本固有の領土であることにふれ、それぞれの歴史的な背景を近代にさかのぼって取り上げ、国際平和のために解決すべき課題として意識できるように配慮されている。 ・「深めよう」の「歴史の中の大震災」（ｐ２７０～ｐ２７１）では、防災と安全についての意識や態度を高め、東日本大震災に関する記述とそれ以後の社会づくりに対して、当地の子どもたちの復興に向けての立ち上がりやボランティア活動について取り上げている。 ・「深めよう」の「人類の歴史とエネルギー」（ｐ２７２～ｐ２７３）では、原子力

	の登場と環境を取り上げている。原子力発電は温室効果ガスを出すことなく効率よく発電できるが、安全性の確保等の問題もあることにふれ、多面的多角的に学習できるようになっている。 ・江戸時代の高度なリサイクルシステムを取り上げ、現代につながるエコロジー社会を考察するてがかりとなり、公民的分野との関連に配慮した内容となっている（ｐ１３８）。 ・「深めよう」のコーナーを設け、詳しく解説されており、生徒が興味関心を持って自学自習に臨もうとする意欲を喚起できる内容となっている。
３　内容の程度	・第１章（ｐ６～ｐ７、ｐ１０～ｐ１１）では、小学校で学習した人物や文化財のイラストを掲載し、各章の始めに小学校での学習内容に基づく年表や資料を提示し、無理なく既習事項を思い出すのに向いている。また、これから学習する時代の概要の理解を進め、中学校の歴史学習にスムーズにつながるよう配慮されている。 ・世界史については、古代文明・宗教の起こり、ルネサンスと宗教革命、市民革命・産業革命など、わが国に影響を強く及ぼした出来事との関連を精選し平易にしかも充実した記述となっている。
４　内容の構成及び配列	・本文は見開き２ページで１単位時間の内容を原則として構成している。 ・「深めよう」「地域の歴史を調べてみよう」などのコーナーも設けられ、身近な地域史と国の歴史を結びつけられるような内容構成になっており、歴史を身近にとらえられ、まさに歴史を「体感」できる。 ・人物を紹介するコーナーを設けるなど、さし絵、地図、写真、グラフ、肖像画、注釈資料、写真などが豊富であるが、豊富すぎてまた内容も詳しすぎるきらいがあり、学習内容の理解を図る上で扱いづらい。
５　創意工夫	・１単位時間に学習のめあてを示す「学習課題」が明示され、「確認」による学習の振り返りも設定されており、学習の流れを組み立てやすくなっており、短時間で学習内容が確実に定着できるよう配慮されている。 ・各時代の終わりには、「ウェビング」「比較表」「ディスカッション」といった言語活動が示され、グループ学習による時代の特色をとらえられるように、また、生徒個々が学習した内容を多角的に見直し、自分の考えで時代をとらえられるように工夫されている。 ・「歴史スキルアップ」などで、学習を整理、発展させる方法を学べるようになっている。
６　使用上の便宜	・版が大きいため、資料や写真が多く掲載されており、見やすいと思われる。随所にその時代の出来事に関連した人物が掲載されていて、興味を引く内容となっている。 ・本文は適度に行間がとられ、文字の大きさ、書体も読みやすいが、強調文字が少なく、本文以外の文字は細かくて見にくい。
７　その他	
総合的な評価	・「取り扱い内容」や「内容の選択」をはじめ、使用上の便宜までを検討し、授業での使いやすさ・理解を図る上で、特に「見開き２ページで１単位時間」であるか、「１単位時間の『学習課題』と『授業後のふりかえり』が設定されているか」「資料の豊富さ」「文章表現は適切な量と表現で、資料との関連が図られているか」などを中心に考え合わせて評価した。その結果、やや資料が少ないと判断した。この点で、この教科書は採択教科書として**「やや適している」**と判断する。

平成２８年度以降使用中学校教科用図書調査報告書

教科（科目）名	社会（歴史的分野）
発行者名（番号） 教科書名	教育出版（１７） 中学社会　歴史　未来をひらく
１　取扱内容	・教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び学習指導要領に定める社会科の目標を達成するための基本的事項が全て取り上げられている。 ・時代ごとに我が国や世界の歴史をより深く学ぶ特集などにより、我が国の歴史の流れと、各時代の特色を世界の歴史を背景に理解させ、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てていくよう配慮されている。
２　内容の選択及び扱い	・「読み解こう」のコーナーでは、本文の学習の流れに即した、さし絵や図表、写真資料を取り扱い、生徒がヒントを元に資料を読み取り、多面的・多角的に考察しながら、読解力や表現力を身につけることができる内容となっている。 ・各章末には「学習のまとめと表現」のコーナーが設けられ、書き込み式の略年表と図表や写真をもとに自分なりの言葉で説明する活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させると共に、思考力・判断力・表現力を向上させる配慮がなされている。 ・章末には、それぞれの時代について学びを深めるトピックが設けられており、生徒が歴史を学ぶ楽しさや先人たちの生き方にふれ、自主的・意欲的に学習を深められる内容となっている。 ・巻末には、日本国内の史跡や文化財、教科書に記述されている歴史的な出来事との関連を示した日本地図が掲載されている。 ・「歴史の窓」コーナーでは、本文に関する話題から歴史への興味・関心を高めるテーマが取り上げられている。 ・単位時間ごとに、導入資料を基に「学習課題」を設け、「ステップ１」「ステップ２」で基礎的・基本的な知識を確認し、自分の言葉で説明する言語活動を設定することにより、思考力・判断力・表現力の育成をうながす配慮が為されている。 ・人権問題では、えた・ひにん（ｐ１１３）や解放令（ｐ１５９）など本文での系統的な記述と合わせて、河原者（ｐ８１）が「歴史の窓」にも掲載されるなど随所に配置され、公民的分野との関連が図られている。 ・本文の随所に世界地図や日本地図が掲載されており、地理的分野との関連が図られるとともに、世界の歴史の中での日本の歴史という観点がある。 ・「地域の歴史を探ろう」（ｐ３０～ｐ３１）では、「地域調査の手引き」を掲載し、歴史調査の手法が身につくよう配慮されている。また、特設ページが設けられ、地域や郷土、資料、人物から歴史を掘り下げ、歴史調査を通じて地域への関心を高める内容となっている。 ・領土問題では、尖閣諸島と竹島の日本への編入過程を詳述している（ｐ１６５）。現在に残った課題（ｐ２５７）の中で、北方領土、竹島、尖閣諸島が日本固有の領土であることにふれ、現在の関係国との交渉状況がわかる内容となっている。 ・東日本大震災についての「歴史の窓」が「私たちの生きる時代へ」（ｐ２５９）の中に設けられている。また、関東大震災の特設ページ（ｐ２３０）では、復興に向けた努力について知ることができる内容となっている。 ・福島第一原子力発電所事故の影響について詳述する「歴史の窓」が「私たちの生きる時代へ」（ｐ２５９）の中に設けられ、今後の日本や世界のエネルギー政策についての課題を投げかける内容となっている。 ・内容については適当であると思われる。各章の終わりに年あたしたちの生きる時代へ表等でまとめができるようになっており、自分で表現しようとする姿勢を身につけさせよう

	とする意図も見られる。 ・江戸時代の高度なリサイクルシステムを取り上げ、現代につながるエコロジー社会を考察するてがかりとなり、公民的分野との関連に配慮した内容となっている（ｐ１２７）。
3　内容の程度	・第１章「歴史の移り変わりを考えよう」（ｐ６～ｐ１０）では、小学校で学習した人物や文化財を年代別に分類したり「人物カード」を作成したりするなどの作業活動を歴史学習の最初に学ばせることによって、生徒が体系的な中学校での歴史学習に無理なく、また意欲的に取り組める内容となっている。 ・世界の歴史では歴史的にかかわりが深く、また地理的にも近い、中国を中心とした東アジアとの関係を中心に取り扱うとともに近現代史に豊富な記述が見られ、充実した内容となっている。しかし、世界の動きを意識して、年代ごとに配列しているため、その分様々な国の話が途中から入ってくるため、生徒にとっては学習の視点が変わり、歴史の連続性が途切れてしまうのではないか。 ・現代史では、東日本大震災と福島原子力発電所の事故、アラブの春など「歴史の窓」で取り上げるなど、日本及び世界の最新情勢も取り扱っている。
4　内容の構成及び配列	・本文は見開き２ページで１単位時間の内容を原則として構成している。 ・各章の終わりには「学習のまとめと表現」が設けられており、指導上無理のない組織配列となっている。 ・さし絵や図表、写真等は精選されたものとなっているが少ない。その分解説の文章量が多くなり、資料集との併用を考えなくてはならない。
5　創意工夫	・「時代の変化に注目しよう」のコーナーでは、それまでに学習した時代とこれから学習する時代の違いを考察できるように工夫されており、グループ学習の題材としても適している。 ・単元のタイトル上には略年表があり巻末には原始・古代から現代までの歴史年表が設けられており、各時代の概要や特色を視覚的にとらえ理解する助けとなる。 ・単元の見出しが「キャッチコピー」のような言葉で学習内容に対するイメージがわきやすい。しかし、大人向けの言葉のようで、奇抜な感があり、学習に臨む生徒の興味関心がかえって弱くなる。 ・見開きページごとに「課題」と「振り返り・まとめ」が明確に示されている。 ・資料に対して「読み解こう」という課題が設定されており、資料の見方や意味を学習できる。
6　使用上の便宜	・ページ数（ｐ２４２）は少ないが、文章が簡潔にまとめられ、読みやすい。 ・資料が控えめで読みやすい。 ・落ち着いた色使いで、全体的に文字も読みやすい。 ・本文が簡易で読みやすい。
7　その他	
総合的な評価	・「取り扱い内容」や「内容の選択」をはじめ、使用上の便宜までを検討し、授業での使いやすさ・理解を図る上で、特に「見開き２ページで１単位時間」であるか、「１単位時間の『学習課題』と『授業後のふりかえり』が設定されているか」「資料の豊富さ」「文章表現は適切な量と表現で、資料との関連が図られているか」などを中心に考え合わせて評価した。その結果、内容の取り扱いにおいて、世界の動きが年代ごとに配列になり、様々な国の話が途中から入ってくるため、生徒にとっては学習の視点が変わり、歴史の連続性が途切れてしまうことも考えられると判断した。この点で採択教科書として**「やや適している」**と判断する。

平成２８年度以降使用中学校教科用図書調査報告書

教科（科目）名	社会（歴史的分野）
発行者名（番号） 教科書名	清水書院（３５） 中学　歴史　日本の歴史と世界
１　取扱内容	・教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び学習指導要領に定める社会科の目標を達成するための基本的事項が全て取り上げられている。 ・生徒が歴史学習の理解を深め、興味・関心を高められるように歴史的事象の因果関係を丁寧に記述している。 　また、生徒の理解を助けるため、豊富な資料を掲載し、多面的に探求できる内容となっている。
２　内容の選択及び扱い	・序章では、小学校で学習した歴史上の人物や出来事について、時代ごとの特色考えるＹチャートを使ったキャッチコピーづくりの学習を設け、生徒が興味・関心を持ち、主体的に学習できるようになっている。 ・各章末には、１ページ分に「(各章）をまとめてみよう」を設け、年表や写真などを用いて書き込み式で、各時代を振り返る作業を設けている。また、生徒自身の言葉で表現させる問いかけを設け、思考力・判断力・表現力を高める内容となっている。 ・単位時間ごとに、導入資料を基に「学習課題」を設け、「まとめてみよう」で基礎的・基本的な知識の振り返りをうながし、「深めよう」で自分の言葉で説明する言語活動を設定することにより、思考力・判断力・表現力の育成をうながす配慮が為されている。 ・各ページには、本文の内容を多面的・多角的に考察できる豊富な資料を掲載し、図、資料、学習内容に関するコラム、人物に関するコラムが色分けされており、見やすいよう工夫されている。 ・「もっと知りたい歴史」のコーナーでは、生徒が自主的・自発的に学習内容をさらに深められるように、考えたり調べたりするポイントを問いかけている。また、関連する本文のページ数を示し、生徒が本文の内容とのつながりを意識して学習できる内容となっている。 「歴史のとびら」のコーナーでは、史実に関する調べ方や資料の読み取り方など、わかりやすく記述されており、自分が興味・関心のある他の課題においても自主的・自発的に歴史研究に取り組みやすい内容となっている。 ・「地図で見る世界史」では、その時代ごとの日本を含んだアジアとヨーロッパの地図が大きく描かれ、その当時の遺産や資料などを掲載することで、時代により世界がどのように変化してきたのか、多面的・多角的に考察できるような内容となっている。 ・領土問題では、「領土の確定と北海道・沖縄」（ｐ１７８）の中で、日清・日露戦争の頃に尖閣諸島や竹島を日本領として編入したことにふれている。また、「国際社会への復帰」（ｐ２５５）の中で、日本固有の領土である北方領土の返還をソ連（解体後はロシア連邦）に求め、交渉を続けていることを記述している。しかし記述量が少ない。 ・序章の見開きで、日本列島は自然災害が多い地域であることにふれ、東日本大震災等の内容を取り上げている。また、「現代の日本」（ｐ２７９）「今後の課題」（ｐ２７２）でも、東日本大震災や原子力発電所の損壊について触れ、今後の日本の大きな課題として取り上げている。 ・「歴史のとびら⑥ 身近な地域を調べよう」（ｐ１３８～ｐ１４３）では、身近な地域の歴史に関するフィールドワークを取り上げ、課題の決定、調査、準備、課題のまとめ、発表とそれぞれの活動を段階的に進められるような内容になっており、地理的分野との関連を持たせている。 ・内容については適当であると思われる。全体的にその時代の基本的事項をおさえた内容となっている。「もっと知りたい歴史」のコーナーで、もう少し深く学んだり、表現する方法を学習できるようになっている。

3　内容の程度	・各章の扉で小学校での既習事項に関する写真を配置し、中学校での歴史学習にスムーズに入れるような内容となっている。 ・世界史では東アジアと日本のつながりが重視され、その関係史が詳述されている。しかし、それ以外は日本の歴史を中心したに世界史的な背景についての記述となっており、やや不十分さがある。 ・基本的な内容は押さえている。１年生（パイ型）で扱うのであれば、適当なように思われる。 ・ｐ６～７に日本のおもな災害を取り上げた年表や減災のための伝承が掲載されており、独自の視点である。
4　内容の構成及び配列	・見開き２ページで１単位時間の内容構成となっている。 ・冒頭にキャッチコピーづくりやＹチャートづくり等を通したグループ学習の進め方が提示されている。しかし、「歴史のとびら」「もっと知りたい」も１単位時間に含まれており、教科書を中心に使用しての授業が組み立てにくい。 ・大きな写真や色彩豊かな絵などの資料が使われ、視覚的にとらえさせやすいよう工夫されている。しかし、生徒の自発的な学習をうながすには、資料が乏しい。 ・時代やその時々の出来事など、基本的な内容を押さえている。しかし、資料が少なく、用語の説明も曖昧で、文章記述量が少なく、説明不足。 ・自主的、自発的な学習をうながす資料に乏しい。
5　創意工夫	・ページごとに「学習課題」となるめあてが示され、ふりかえりとなる「まとめてみよう」が表示され、課題意識を持って学習に取り組めるように工夫されている。 ・各章の扉で「時代を代表する写真」や小学校での既習事項に関わる写真が取り上げられ、これから学ぶ時代の特色を予測展望できるように工夫されている。また、吹き出しの「問いかけ」によって学習課題が明確にできるよう工夫されているため、短時間で学習内容が確実に定着できるよう配慮されている。
6　使用上の便宜	・本文は字が大きく読みやすい。しかし、本文以外の文字が細かく、背景に色を使っているため読みにくい。 ・他社の教科書と比べて本文の文章量が少ない。 ・Ｂ５版で他社の教科書より横幅が小さく、持ち運びやすく、生徒の机の大きさを考えると取り扱いやすい。 ・文章表記が「常態」であるため、「堅い」印象を受ける。 ・年表印刷がもう少し鮮明であれば良いと思われる。
7　その他	
総合的な評価	・「取り扱い内容」や「内容の選択」をはじめ、使用上の便宜までを検討し、授業での使いやすさ・理解を図る上で、特に「見開き２ページで１単位時間」であるか、「１単位時間の『学習課題』と『授業後のふりかえり』が設定されているか」「資料の豊富さ」「文章表現は適切な量と表現で、資料との関連が図られているか」などを中心に考え合わせて評価した。その結果、資料、世界史の記述、文章量等を考え合わせると、もっとも適切であると考える他社の教科書に比べて、**適切であるとはいいがたい**。

平成２８年度以降使用中学校教科用図書調査報告書

教科（科目）名	社会（歴史的分野）
発行者名（番号） 教科書名	帝国書院（４６） 社会科　中学生の歴史　日本の歩みと世界の動き
１　取扱内容	・教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び学習指導要領に定める社会科の目標を達成するための基本的事項が全て取り上げられている。 ・歴史の流れを特に意識しながら、たくましく歴史を生きた人々の姿や、歴史に対する様々な立場や視点を各所に取り入れることにより、新しい社会を生み出す創造力を身につけ、「公共の精神」を尊重しながら主体的に社会の形成に参画する力を養える内容となっている。
２　内容の選択及び扱い	・各時代の導入部に当たる「タイムトラベル」では、原始から現代までの１０の時代を大きなイラストによって、人々の生きた姿を生徒が興味・関心や課題意識を持って学習に取り組めるように配慮されている。（ｐ２０～ｐ２１等）。 ・各章末には「学習をふりかえろう」のコーナーが設けられ、書き込み式の略年表と図表や写真をもとに自分なりの言葉で説明する活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させると共に「タイムトラベル」と関連づけて、思考力・判断力・表現力を向上させる配慮がなされている。 ・単位時間ごとに、導入資料を基に「学習課題」を設け、「確認しよう」で基礎的・基本的な知識、「説明しよう」で自分の言葉で説明する言語活動を設定することにより、思考力・判断力・表現力の育成をうながす配慮が為されている。 ・学習する上で大切な用語をわかりやすく説明した「解説」を５４ヶ所（ｐ１３８等）設け、文章の解説だけでは理解しづらい用語は、図や写真を用いて視覚的に理解が深まるよう工夫されている。 ・「人物コラム」では、歴史に足跡を残した人物を取り上げ、その業績や努力する姿考え方が見える内容となっている（ｐ４０、ｐ１４９等）。 　また、「地域史」のコラムでは、通史の学習をしながら、地域から歴史をとらえる視点を意識できる内容となっている（ｐ６１、ｐ２１１等）。 ・「文化史」では、各時代の有名な文化財や芸術作品を紹介し、日本の伝統や文化への興味・関心を高められるよう大きな資料写真（ｐ１３０等）を紹介し、文化の担い手が身近なものとしてとらえられるよう配慮されている。 ・「羅針盤マーク」のコラムでは、「自然環境」（ｐ１１９）「人権」（ｐ１４９等）、「交流」（ｐ１８３等）、「平和」（ｐ２３１等）の４テーマ計３４ヶ所設け、丁寧に紹介し歴史の多様な側面をとらえると共に、未来の者会を作るために必要な知識を学べるよう配慮されている。 ・領土問題については、「日本の領土と近隣諸国」で、北方領土がサンフランシスコ平和条約の放棄地に含まれていないことなどが記述されている。また、竹島、尖閣諸島が日本固有の領土であることにふれ、現在に至るまでの歴史的経緯を記述している。（ｐ２４６～ｐ２４７） ・「国際社会におけるこれからの日本」（ｐ２６０～ｐ２６１）では、東日本大震災に関して記述し、原子力発電所の事故、放射性物質への不安、住民避難やがれき・汚染水の処理についての問題を取り上げ、コラム「羅針盤」で環境問題や防災に活かす知恵と技術についての意識を高め、今後の社会作りの取り組みについて紹介している。 　また、原子力発電所の事故をきっかけにエネルギー確保の方法論や再生可能エネ

	ルギー、消費社会のあり方など公民学習との関連が図られている。
3　内容の程度	・第１部第１章では「歴史の流れと時代区分」により小学校で学習した人物や出来事のイラストを用いて、無理なく既習事項を思い出すのに向いている。また、これから学習する時代の概要の理解を進め、中学校の歴史学習に興味や関心を持って時代の移り変わりや時代区分の学習ができる内容となっている。 ・第１部第２章では「歴史の調べ方　まとめ・発表の仕方」で身近な地域の歴史について調査している事例を掲載し、追体験しながらグループ学習での表現活動への興味関心を高めることができるよう配慮されている。 ・江戸時代の高度なリサイクルシステムを取り上げ、現代につながるエコロジー社会を考察するてがかりとなり、公民的分野との関連に配慮した内容となっている（ｐ１３４～１３５）。
4　内容の構成及び配列	・見開き２ページで１単位時間の構成を取り、１単位にかかる時数にあわせて配列もされており、無理なく学習を進めることができる内容構成となっている。 ・比較的大きく、あざやかな図表や写真が多いので、自主的・自発的な学習を指導する上で適切である。 ・人権についての本文での扱いが弱いものの、資料等で詳しくしている。
5　創意工夫	・各見開きに学習のめあてとなる「学習課題」を明示しまとめとして「確認しよう」が示され基礎的・基本的内容を振り返るのに適している。また、知識を整理する言語活動をうながす「説明しよう」があり、グループ学習などの際の発展的な課題として適している。理解を深め自主的に考察できる力がみにつけられるよう配慮されている。 ・各章の終わりに「学習を振り返ろう」があり、年表などを用いて各時代の特色を理解し整理・習得した俊樹を活用して「調査・作業」などの学習活動や自分の言葉で表現させるための工夫がある。 ・時代の区切りを「タイムトラベル」として、学習の整理をしやすい。 ・特設「歴史を探ろう」では、地域の歴史にも視点を当て、学習した様々な地域（１１テーマ）を扱い、より深く学習できるように工夫されている。 ・コラム「技能をみがく」、特集「トライアル歴史」では、資料の見方について学習できるばかりでなく、歴史的な思考・判断、自分の考えをまとめて伝える表現技能まで総合的に身につくよう工夫されている。
6　使用上の便宜	・ページ数（２６８ｐ）が他社の教科書（２９０ｐ前後）と比べて少なく、簡潔にまとまっていて見やすい。 ・グラフや地図の資料もカラフルかつ鮮明で見やすく興味関心を引く ・全体的に文字がすこし小さく、やや文章量が多めなため読みにくさを感じるが、内容はわかりやすい文章表現となっている。
7　その他	
総合的な評価	・「取り扱い内容」や「内容の選択」をはじめ、使用上の便宜までを検討し、授業での使いやすさ・理解を図る上で、特に「見開き２ページで１単位時間」であるか、「１単位時間の『学習課題』と『授業後のふりかえり』が設定されているか」「資料の豊富さ」「文章表現は適切な量と表現で、資料との関連が図られているか」などを中心に考え合わせて評価した。その結果、使用教科書として適していると考えるが、資料の豊富さの点で、やや資料が少ないと判断した。この点で、この教科書は採択教科書として**「適している」**と判断する。

平成２８年度以降使用中学校教科用図書調査報告書

教科（科目）名	社会（歴史的分野）
発行者名（番号）・教科書名	日本文教出版（１１６） 中学社会　歴史的分野
１　取扱内容	・教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び学習指導要領に定める社会科の目標を達成するための基本的事項が全て取り上げられている。 ・豊富な資料や地図を使い、各時代の特色や転換点などを考える活動を通して、生徒が歴史を多面的・多角的に考察し、深めることができる内容となっている。 　また、小学校での学習との関連を図るとともに、新出の事柄については、重要語句として取り上げ、知識の定着とそれを活用した学習を意識した編集となっている。
２　内容の選択及び扱い	・各編の冒頭では、学習のねらいを定め、途中に「時代の転換のようす」を設定している。 ・各編末に、まとめとして「とらえよう『ｏｏ』の特色」を設け、年表や地図を使って各時代に起こった出来事や起こった場所をわかりやすくまとめる学習を行い、歴史を視覚的にとらえることができる内容となっている。 　また、書き込み式の略年表と図表や写真をもとに自分なりの言葉で説明する活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる、思考力・判断力・表現力を向上させる配慮がなされている。 ・各編の冒頭に「地図で見る世界の動き」を設け、世界や東アジアの歴史の中で日本の歴史をとらえ、広い視野から多面的・多角的に歴史をとらえることができる内容となっている ・単位時間ごとに、導入資料を基に「学習課題」を設け、「確認」で基礎的・基本的な知識、「活用」で自分の言葉で説明する言語活動を設定することにより、思考力・判断力・表現力の育成をうながす配慮が為されている。 ・特設ページ「歴史を掘り下げる」や「先人に学ぶ」では、歴史学習をより幅広くとらえるために、「資源」「環境」「伝統と文化」などのテーマを取り上げ、今日的な歴史的背景の解説や先人たちの生き方を学ぶことで、歴史に学び、自主的な学びをうながす内容となっている。 ・「言語活動コーナー」では、資料の読み取りや、読み取ったことを基に考え、表現する活動を取り入れることで、発展的な学習へつなげるものである。 ・人権問題では、河原者（ｐ８７）や「えた」「ひにん」身分の人々への統制（ｐ１３５）などを「プラスα」の中で取り扱い、公民的分野や道徳など他教科との関連に配慮されている。 ・「出かけよう！地域調べ」では、調査計画の立て方（ｐ５４～ｐ５５）や史跡・博物館への見学方法（ｐ９２～ｐ９３）などのテーマを設け、歴史調査の手法が身につくよう配慮されている。 ・領土問題について、尖閣諸島、竹島の日本への編入の歴史的経緯にふれ、正式に日本の領土としたことを記述し、解決を求められている大きな問題として取り扱っている（ｐ２６５）。また、北方領土については、日本固有の領土であることにふれ、ロシア連邦と現在交渉中であることを記述している（ｐ２５９）。 ・東日本大震災については、地震と津波による被害の状況を詳細に示すと共に、震災前後の写真で、その被害の大きさを視覚的に伝える内容となっている（ｐ２６９）。また、「先人に学ぶ」では、災害への備えを過去から考えることをテーマとして、災害を教訓として未来の人々に伝える活動を取り上げている（ｐ２７４～ｐ２７５）。 ・原子力発電については、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の炉心溶融が発生したこと、また、強制退去させられた住民は震災後も、長い間帰宅がかなわず、現在も全国各地で避難生活を送っていることを記述している。 ・江戸時代の高度なリサイクルシステムを取り上げ、現代につながるエコロジー社会を

	考察するてがかりとなり、公民的分野との関連に配慮した内容となっている（ｐ１４１）。 ・神話については、ごく一部触れているにとどめている。
３　内容の程度	・小学校で学習した人物や出来事、文化遺産など歴史の大きな流れを振り返る学習が設定されている（ｐ６～ｐ１３）。歴史学習の最初に学ばせることによって、無理なく既習事項を思い起こさせながら年代の表し方や時代区分、中学校での歴史学習のポイントを示して、生徒が体系的な中学校での歴史学習に無理なく、また意欲的に移行できる配慮が為されている。 ・全単元を通じて日本と歴史的にかかわりが深く、また地理的にも近い、東アジアの歴史の中で日本史をとらえられるようにしている。また、現代史では世界で活躍する日本人を取り上げ、世界に視野を広げられるように配慮している。
４　内容の構成及び配列	・見開き２ページで１単位時間の内容となっており、授業の展開や学習の見通しをつかみやすい構成にしている。 ・漫画のイラストが多いように感じるが、資料や図版、写真は、種類も豊富に掲載され、また鮮明で大きくて見やすく整えられており、本文とのバランスもよい。特に図表が多く、見やすい大きさに整えられているため時代像を具体的にイメージしやすい。 ・「とらえよう！時代の転換」で時代ごとの違いを整理できるように工夫された構成となっている。
５　創意工夫	・単元ごとに「学習課題」と「キーワード」が明示されており、何について学習していくのかをつかみやすい。また、学習の整理とまとめである「学習の確認と活用」が見開きのどのページにも設けられており、「確認」は教科書記述と資料で確かめることができ、「活用」は思考力とまとめる力を養うことができ、グループ学習などの際の発展的な課題として適している。 ・「図版特集」では、古代から現代にいたるまでの様子を大判の紙面を活かしてビジュアル的に示しているので、イメージとしてとらえやすい。また、文化財の大きさを生徒との比較や実物大で掲載しているため、資料を使っての思考を十分助け、理解も深めやすい。 ・見開きページの左端にはスケールが設けられ、学習している内容がどの時期の出来事か視覚的にとらえることができる。 ・「連携コーナー」では、公民や地理・地図、小学校での既習事項とのつながりを示し、既習事項や他分野の学習とつなげることができ、「社会」を総合的にとらえることができる。
６　使用上の便宜	・本文は字間や行間が広く、読みやすい。しかし、・さし絵は見にくい。また、本文以外の文字が細かく見にくいという点が気に掛かる。
７　その他	
総合的な評価	・「取り扱い内容」や「内容の選択」をはじめ、使用上の便宜までを検討し、授業での使いやすさ・理解を図る上で、特に「見開き２ページで１単位時間」であるか、「１単位時間の『学習課題』と『授業後のふりかえり』が設定されているか」「資料の豊富さ」「文章表現は適切な量と表現で、資料との関連が図られているか」などを中心に考え合わせて評価した。その結果、この教科書は採択教科書として**「もっとも適している」**と判断する。

平成２８年度以降使用中学校教科用図書調査報告書

教科（科目）名	社会（歴史的分野）
発行者名（番号）・教科書名	自由社（２２５） 新版　新しい歴史教科書
１　取扱内容	・教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び学習指導要領に定める社会科の目標を達成するための基本的事項が全て取り上げられている。 ・学習指導要領・歴史的分野の目標（１）に掲げられた「我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる」という観点に重きを置き、本文以外のコラム等でも幅広く記述している。
２　内容の選択及び扱い	・序章では、テーマ・人物・地域といった多面的・多角的な例示で調べ学習の方法が記述されており、生徒が興味・関心を持って自主的な学習が行える内容となっている（ｐ１２～ｐ２４） ・各章の最後のページには「歴史豆辞典」のコーナーが設けられ、各章の中で重要な１５項目の歴史用語を１００字以内でまとめており、基礎的・基本的な知識を定着させると共に自分の力でまとめることができる内容となっている。 ・単位時間ごとに、導入資料を基に「学習課題」を設け、「まとめにチャレンジ」で自分の言葉で説明する言語活動を設定することにより、思考力・判断力・表現力の育成をうながす配慮が為されている。 ・コラム「外の目から見た日本」（ｐ１２０、ｐ１８１～ｐ１８２等）では、外国の人々が感じた日本の精神や文化について記述されており、コラム「人物クローズアップ」（ｐ１３５、ｐ１４０～ｐ１４１等）では、その人物の生い立ちや生き方などが記述され、道徳教育と関連した内容となっている。 ・「近代の日本と世界」の大項目は（Ⅰ）（Ⅱ）の章に分かれ、２０世紀以降の近現代史が詳しく学習できるよう豊富な資料を用いて記述されており、多面的・多角的に考察できるような内容になっている。 　しかし・世界史に関わる部分の構成や表記が少なく、歴史的空白部分が多い。また、日本とのかかわりがわかりにくい。 ・「もっと知りたいコラム」（ｐ２８～ｐ２９、Ｐ３２～ｐ３３等）が１ページ又は見開き２ページでたくさん設けられており、本文では掲載しきれない内容を依り詳しく、おもしろく記述することで、歴史的事象を興味・関心を持って、さらに深く掘り下げることができる内容となっている。 ・序章の「地域の歴史を調べる」では、各地域の史跡を元に歴史を調べる方法が具体的に記載されており、各地域の実態に照らして学習できるよう配慮されている。また、地理的分野との関連にも配慮した内容となっている。（ｐ２０～ｐ２４） ・領土問題については、北方領土がソ連によって不法に占拠されたことなどが記述されている（ｐ２５２、ｐ２５８）。また、「２１世紀の日本の進路」（ｐ２７２～ｐ２７３）で尖閣諸島について日本が「尖閣は日本固有の領土であり、領土問題は存在しない」との立場を取っていることにふれている。 また、竹島について、日本固有の領土であるが、韓国が自国領と主張していることについて記述している。 ・東日本大震災や原子力発電所の事故による被災者の行動やふるまいについて記述した「２１世紀の日本の進路」（ｐ２７２～ｐ２７３）を設け、詳しい内容を「東日本大震災と日本人」（ｐ２７６）で、外国の人々の感嘆と賞賛という角度から取り上げている。 ・もっと知りたいコラム「エコロジー都市　江戸」（ｐ１４７）では、江戸時代の高度なリサイクルシステムを取り上げ、現代につながるエコロジー社会を考察するてがかりとなり、公民的分野との関連に配慮した内容となっている。

	・神話の内容で１単位時間の単元を構成しており、発掘等による歴史的事実と整合性がとれない。 ・神話などを取り上げている反面、「飛鳥と天平」や「鎌倉と室町」など文化がひとまとめにされている。 ・他社の教科書ではあまり取り上げられていない「大東亜会議」と「大東亜共同宣言」が大きく取り上げられている。 ・2 ページ（ｐ２６６～ｐ２６７）にわたって昭和天皇が取り上げられ、その業績に焦点を当てている。
３　内容の程度	・序章の「人物を通して時代をとらえる」では、小学校の既習事項から人物カードをつくり、ミニ伝記を書く方法が紹介され、小学校からの学習を発展させた形式で中学校での歴史学習への興味・関心を高めるようにしている。 ・各単元の課題に学習課題が設定されており、また、各章で設定されている学習課題がなじみやすい平易な話し言葉で友だち同士で話しているように記述され、生徒が課題に向けて取り組みやすくはなっているが、本文の記述に難解な語句が多用されている。
４　内容の構成及び配列	・見開き２ページで１単位時間の内容構成となっており、単元は１から９１までの通し番号がつけられているため、指導計画を立てていく上では、無理のない構成や配列となっている。 ・さし絵や図表・写真等は鮮明であり、学習内容の理解を図る上では効果的な配列のように思われる。用語については欄外に多数解説がつけられており、記述も適切である。しかし、他の教科書と比較して資料は少なく、小さいように思われる。 ・文章表現は論述型で堅い表現が多く、論述型の教科書と言える。そのため生徒が興味を持ちづらく、自学自習しづらいのではないか。
５　創意工夫	・序章では１２ｐ（ｐ１２～ｐ２４）にわたって様々な方法の「調べ学習」と進め方を紹介し、学習が進めやすいよう配慮されている。 ・各章の最後に設定されている「ｏｏ章のまとめ」や「歴史豆辞典」などのコラムを配列し、学習内容を整理しやすくなっている。 ・「もっと知りたい」などのコラムはあるが、全体的に資料に乏しく、生徒に興味関心を持たせる工夫が不十分なため、自主的・発展的な学習には適さない。
６　使用上の便宜	・Ｂ５版で他社の教科書より横幅が小さく、持ち運びやすく、生徒の机の大きさを考えると取り扱いやすい。 ・写真や図表など、資料は鮮明である。 ・文字の大きさ、字間・行間は適切である。
７　その他	
総合的な評価	・「取り扱い内容」や「内容の選択」をはじめ、使用上の便宜までを検討し、授業での使いやすさ・理解を図る上で、特に「見開き２ページで１単位時間」であるか、「１単位時間の『学習課題』と『授業後のふりかえり』が設定されているか」「資料の豊富さ」「文章表現は適切な量と表現で、資料との関連が図られているか」などを中心に考え合わせて評価した。その結果、資料、世界史の記述、文章量等を考え合わせると、もっとも適切であると考える他社の教科書に比べて、**適切であるとはいいがたい**。

平成２８年度以降使用中学校教科用図書調査報告書

教科（科目）名	社会（歴史的分野）
発行者名（番号）・教科書名	育鵬社（２２７） 〔新編〕　新しい日本の歴史
１　取扱内容	・教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び学習指導要領に定める社会科の目標を達成するための基本的事項が全て取り上げられている。 ・日本の豊かな伝統と文化や世界の歴史との関わりを、豊富な資料で記述しており、生きる知恵を学び、日本と国際社会に貢献できる人材を育成するという理念を実現するような内容となっている。
２　内容の選択及び扱い	・Ｐ６「歴史の旅を始めよう」、ｐ２８１「歴史の旅の終わりに」を大きく示し、歴史学習を通して現在を生きていることの意味と担っている大切な役割を歴史の連続性の中に明示することで、伝統と文化を尊重し、それらを育んできたわが国と郷土を愛すると共に他国を尊重し、国際社会の平和と発展に尽くす態度を養える内容とつながっている。 ・各章の扉では、「海洋国家・日本の歩み」として、遣明船、朱印船、咸臨丸などの船を取り上げ、世界の様々な国と交流を行ってきた歴史を紹介し、国際理解を深めることができるよう配慮されている。 ・各章の冒頭に、鳥の目で見る「歴史絵巻」が設けられており、各時代の流れが一目でわかるようになっており、次の見開きで虫の目で見る「ｏｏの世界へようこそ」では、時代の様子を表す資料と詳しい解説で時代の特色が理解できるようになっている。 ・各章末には「学習のまとめ」を設け、書き込み式の略年表と図表や写真をもとに自分なりの言葉で説明する活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させると共に、思考力・判断力・表現力を向上させる配慮がなされている ・単位時間ごとに、導入資料を基に「学習課題」を設け、「鉛筆マーク」のある枠内に重要語句や用語を使ってｏｏ字程度で自分の言葉で説明する言語活動を設定することにより、思考力・判断力・表現力の育成をうながす配慮が為されている ・「なでしこ日本史」（ｐ９６、ｐ１５０等）では、古代から近代まで、各時代に活躍した代表的な女性の生き方や考え方について調べたり考えたりする活動を通して、歴史学習への興味・関心、意欲を高め、道徳教育と関連した内容となっている。 ・コラム「人物クローズアップ」（ｐ１３３、ｐ１３９等）で、人生の岐路において道を切り開いていったこと事績をその人間的な魅力と共に紹介し、道徳心を培い、自主及び自立の精神を養うと共に、勤労を重んじる態度を養うよう配慮されている。 ・コラム「課題学習」では、地域調査や調べ学習など、自分達で取り組む課題が示されている。「歴史新聞をつくろう」（ｐ２７６～ｐ２７７）「歴史ロールプレイをやってみよう」（ｐ２７８）など、作業的・発表学習への取り組みを通して、資料、図書館やインターネット等を情報活用しての調べ学習が行えるよう配慮されている。 ・各時代を代表する日本の文化遺産や、奈良・京都の代表的な建築物や彫刻、世界と日本の世界文化遺産、日本の主な遺跡・史跡など口絵「日本の美の形」、巻末付録で数多く紹介し、具体的に実感できるよう配慮されている。 ・領土問題では、コラム「歴史ビュー　わが国固有の領土国境の島々」（ｐ１７３）と「世界のための日本の役割」（ｐ２７３）の中で、北方領土と竹島は、それぞれロシアと韓国に不法占拠されていること、尖閣諸島は中国などが領有を主張していることを記述している。 ・東日本大震災について、被災地の人たちの公共心やがまん強さ、責任感などが世界からたたえられたと紹介している（ｐ２７２）。また、津波などによって起きた原子力発電所の事故について、避難生活を送らなければならない状況、これからのエネルギー政策をどうするかが議論されていることを記述している。 ・江戸時代の高度なリサイクルシステムを取り上げ、現代につながるエコロジー社会を

	考察するてがかりとなり、公民的分野との関連に配慮した内容となっている（ｐ１２９）。 ・他社の教科書ではあまり取り上げられていない「大東亜会議」と「大東亜共同宣言」「大東亜共栄圏」が大きく取り上げられ、強調されている。 ・ｐ２４１、ｐ２５４、ｐ２５７、ｐ２６５など様々な部分で昭和天皇が紹介されている。 ・世界史の扱いが不十分である。第２次世界大戦においては、日本側からとらえた戦争の経緯を詳しく記述している。
３　内容の程度	・各章のはじめに見開きで「歴史絵巻」を設け、小学校で学習した人物や文化財のイラストを掲載し、各章の始めに小学校での学習内容に基づく年表や資料を提示し、無理なく既習事項を思い出すのに向いている。また、これから学習する時代の概要の理解を進め、中学校の歴史学習にスムーズにつながるよう配慮されている。 ・文章表記内の日本の表記をすべて「わが国」という言葉で統一しており、他社では見られない独自の表現となっている。 ・「この頃の世界は」というコーナーで同時期同時代の世界の出来事がわかり、日本との関わりや背景を重視した内容となっているなど、
４　内容の構成 及び配列	・見開き２ページで１単位時間の内容構成となっているため、学習テーマが明確であり、学習内容がわかりやすくなっている。 ・問題解決的な学習やコラム等も配列され、学習指導上無理のない構成配列となっている。 ・使用されている図表が、視覚的にわかりにくい。 ・漫画の挿絵が多用されているページは、資料の配置が整えられていない印象を受け、基礎的・基本的事項の理解を妨げるものとなっていると言える。 ・難解語句については、説明があり丁寧である。
５　創意工夫	・歴史の節目となった場面をイラストや写真とともに臨場感溢れる「読み物」としての描写表現をとり、その事象に関わった人物が、歴史の中で果たした役割を考えさせる上で役立つよう工夫されている。 ・見開きの１単位学習ごとに学習課題が明示され、学習の振り返りも作業や文章でまとめたりできるよう設定され、毎時間の学習の中で無理なく生徒の思考力・判断力・表現力を育むことができるよう工夫されている。 ・各章の最後に「学習のまとめ」を設定し、基礎的・基本的知識及び技能習得の徹底が図られるよう工夫されている。 ・「歴史ズームイン」や「なでしこ日本史」で生徒の興味・関心・意欲をたかめ、発展的な内容を学習できるようになっている。
６　使用上の便宜	・判型がＡＢ版で大きく、資料は鮮明で見やすい。 ・文字の大きさ、字間・行間は見やすく適切である。しかし、文章表記にルビが多いため、かえって本文が読みにくい。
７　その他	
総合的な評価	・「取り扱い内容」や「内容の選択」をはじめ、使用上の便宜までを検討し、授業での使いやすさ・理解を図る上で、特に「見開き２ページで１単位時間」であるか、「１単位時間の『学習課題』と『授業後のふりかえり』が設定されているか」「資料の豊富さ」「文章表現は適切な量と表現で、資料との関連が図られているか」などを中心に考え合わせて評価した。その結果、資料、世界史の記述、文章量等を考え合わせると、もっとも適切であると考える他社の教科書に比べて、**適切であるとはいいがたい**。

平成２８年度以降使用中学校教科用図書調査報告書

教科（科目）名	社会（歴史的分野）
発行者名（番号）・教科書名	学び舎（２２９） ともに学ぶ人間の歴史
１　取扱内容	・教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び学習指導要領に定める社会科の目標を達成するための基本的事項が全て取り上げられている。 ・生徒が学習に意欲的に取り組み、身近に感じることができるよう多様なテーマを設定し、人々の暮らす姿をとらえやすくする工夫がなされている。 　また、そのために様々な資料や図版などが配列され、生徒が多面的・多角的に考えることができる内容となっている。
２　内容の選択及び扱い	・世界の歴史を含めて１２０テーマが設けられており、本文には、各時代の核となる事柄が取り上げられている。そのため、本文を読み進めたり、資料を読み取ったりしていくことで生徒自身が「問い」を持って取り組むことができる内容となっている。しかし、・各時代の出来事をならべただけのような感じがあり、歴史の連続性を意識した学習は難しい。 ・第１章ではタイトルの下に本時の学習課題示されている。しかし、第２章以降は学習課題が設定されておらず、生徒たちが疑問や課題を出し合いながら学習し、自主的・自発的に学習を進めていくことを意図した内容となっているため、学習理解が不十分な生徒には、学習しにくい。 ・各部の学習のまとめでは、時代の特色や転換を書き込み式やゲーム方式を紹介して振り返る活動と共に、絵画資料に説明をつける（ｐ８７）や学習の中で印象に残った出来事をまとめる（ｐ２５５）など言語表現活動を設け、生徒が言語活動の中で振り返ることができる内容となっている。 ・各章の扉絵には、世界地図と時代ごとの各地の特色を示した写真資料が掲載されている。また、世界史の記述が豊富で、時代ごとの世界と日本の歴史を地理的な側面や様々な共通点から考えることができる内容となっている。 ・「歴史を体験する」では、火おこし（ｐ３０～ｐ３１）、糸紡ぎ（ｐ１６８～ｐ１６９）などの体験を通して、生活との関連を活かした歴史の理解を深めたり、インターネット（ｐ１１２～ｐ１１３）や図書（ｐ２２０～ｐ２２１）、家族からの聞き取り（ｐ２９０～ｐ２９１）を丁寧に示したりして、調べる・まとめる、発表したりする等の活動を通して、思考力や創造力を育むことが意図された内容となっている。 ・卑弥呼をはじめとして各時代の女性の姿を具体的に取り上げたり、生活の困難を乗り越えようとする人々の姿を具体的に描いたりすることで、男女平等に力点を置き、公民的分野との連携を図っている。 ・領土問題では、竹島、尖閣諸島は閣議決定により、日本の領土に編入されたことを記述している（ｐ１９５、ｐ１９９）。また、北方領土については、日本固有の領土であり、その帰属についてロシアと交渉を行っていることを記述している（ｐ２６７）。 ・東日本大震災については、被害の状況と震災とその津波の影響によって、原子力発電所の事故が起こったことを記述し、多くの人が不安を抱えながら暮らしていること、また復興に向けて国内外から支援が続けられていることが記述されている（ｐ２６８）。 ・福島第一原子力発電所について、被害の状況と地域に与えた影響について記述されている。また、チェルノブイリ原子力発電所の事故にもふれ、原子力発電の危険性について言及する記述がなされている（ｐ２８６）。
３　内容の程度	・「歴史への案内」（ｐ４～ｐ９）では、各時代の人物や文化遺産について振り返り、まとめる活動や年表に位置づける活動を通して、小学校での既習事項を学び直す活動

	を組み込むことで、年代の表し方や時代の区切りなど、中学校での学習に無理なく入れるような内容となっている。 ・各単元の「見出し」が学習する内容を表しているが、成人向けの言葉で難解である。 ・歴史事象を丁寧に文章で説明してあるが、文章が難解で、内容も高度なものとなっており、学習の中心である基礎的基本的でしかも重要語句が太字になっていない。 ・指導上の読み物教材として補助的に使用するには適切なであると言える。 ・資料及びコラム等で、民衆や社会的弱者に視点を充てたものが多く見られ、他者の教科書では見られない独自性となっている。
４　内容の構成及び配列	・見開き２ページで１単位時間の内容となっており、各時代の歴史事象の構成・配列は適当であり、学習上無理のない配当時間となっている。しかし、各単元ごとに、その時間に学習する「課題」設定や学習後の整理としての「まとめ」や「振り返り」などの工夫がなされていない。 ・歴史の連続性で表現されているとは言い難く、歴史を大観できる構成とは感じられない。 ・さし絵や図表、写真等は本文の内容に合わせて、精選されたものとなっているが、指導用要領に基づき指導し、内容を理解させる上では資料が少ない。 ・文章表現は論述型で堅い表現が多く、論述型の教科書と言える。そのため生徒が興味を持ちづらく、自学自習しづらいのではないか。
５　創意工夫	・各章の扉には各時代でテーマを設定し、世界全体の様子を広く見ることができ、これから学習する各時代を概観し、スムーズに内容の学習に入るうえでは工夫されている。 ・章の振り返りのページでは、絵について説明させたり（ｐ８７）、インターネットを利用した調べ学習をうながしたり（ｐ１１２）、４人班でのグループ学習を取り入れる（ｐ１４３）など、生徒に自主的・主体的に学ばせようとする意図が感じられる。 ・本文中の「フォーカス」で、当時の状況をイメージさせやすい工夫がある。 ・巻頭・巻末の世界及び日本の歴史地図や年表中の資料は、歴史の流れや出来事を視覚的にとらえやすい工夫が為されている。
６　使用上の便宜	・Ａ４大判で大きく見やすいものとなっているが、生徒が机上で使い、さらに持ち運ぶには使いにくい。 ・本文の大きさ、字間・行間は、読みやすく適切である
７　その他	
総合的な評価	・「取り扱い内容」や「内容の選択」をはじめ、使用上の便宜までを検討し、授業での使いやすさ・理解を図る上で、特に「見開き２ページで１単位時間」であるか、「１単位時間の『学習課題』と『授業後のふりかえり』が設定されているか」「資料の豊富さ」「文章表現は適切な量と表現で、資料との関連が図られているか」などを中心に考え合わせて評価した。その結果、副読本的に扱う教材としては使用するに適していると言えるが、資料、世界史の記述、文章量、Ａ４大判で持ち運びにくさ等を考え合わせると、もっとも適切であると考える他社の教科書に比べて、**適切であるとはいいがたい**。